

説明文

【研究名】

・光干渉断層法(OCT)により得られた冠動脈の形態学的所見と、心筋架橋(Myocardial bridge)との相関に関する臨床研究

説明内容：

1. はじめに

光干渉断層法(OCT)により観察した冠動脈プラーク所見はその形態学的特徴を反映しており、OCTで観察される Plaque rupture (プラーク破綻), plaque erosion (プラークびらん)、calcified nodule (石灰化結節)は急性冠症候群の病理学的発症要因を認識・分類するうえで有用とされ、形態の相違により患者背景、予後が異なることが知られています。当院では2008年よりOCTを導入し、冠動脈狭窄の不安定性の判定や急性冠症候群の病態解明に役立てております。一方、冠動脈の先天的な解剖学的形態異常のひとつである心筋架橋(Myocardial bridge)は、従来良性の構造物であると考えられてきた一方で、心筋虚血や上流のプラーク形成に影響するという報告もあり、その臨床的意義については不明な点が多いとされています。

血管造影や冠動脈CT撮影により Myocardial bridge を同定することが可能であり、これとOCTにより観察されたプラーク所見との関連を評価することで、冠動脈疾患のさらなる病態解明に寄与するものと考えられます。

2. 調査の方法・副作用

2011年10月以降、当科に急性冠症候群で来院され経皮的冠動脈形成術をお受けになる患者様を対象に、入院時および入院後に通常の適応の範囲内で冠動脈CT撮影、心臓カテーテル検査(血管造影)、光干渉断層法の評価をお受けいただきます。経皮的冠動脈形成術は通常通り受けていただき、その結果や治療中の所見について評価いたします。患者様の自覚症状、内服、既往歴、心臓超音波検査所見といった情報についてもまとめて評価いたします。

予想されるリスクとしては、検査時の造影剤使用によるアレルギー、腎障害、不整脈などが考えられますが、検査に伴う重篤な合併症が発症する可能性は極めて低いと考えられます。

3. 調査に同意されなかった場合や撤回したい場合

この調査に参加されない場合でも、特に何ら不利益になることはありません。また同意を途中でお取り消しになる場合はいつでも可能であり、また治療は同様に継続されます。

4. 患者様の人権・個人情報の保護について

あなたの人権、個人情報については厳重に保管され、外部にもれることはありません。この調査について心配なことや、疑問がありましたら、いつでも遠慮なく主治医にご相談下さい。

研究担当医師

〒300-0028

茨城県土浦市おおつ野4-1-1

土浦協同病院 循環器内科 白井英祐

TEL: 029-830-3711